

第2学年 国語科 学習指導案

日時 令和5年11月24日(金) 6校時
児童 2年生 8名
授業者 八幡 隼世

- 1 単元名 せつめいのしかたに気を付けて読み, おもちゃの作り方の説明書を書こう
教材名 「馬のおもちゃの作り方 おもちゃの作り方をせつめいしよう」(光村図書2年下)
- 2 単元の目標
 - (1) 共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
[知識及び技能] (2) ア
 - (2) 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。
[思考力, 判断力, 表現力等] C (1) ウ
 - (3) 事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 [思考力, 判断力, 表現力等] B (1) イ
 - (4) 言葉がもつよさを感じるとともに, 楽しんで読書をし, 国語を大切にして, 思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力, 人間性等」

3 単元について

(1) 教材について

本教材は, 児童が意欲的, 主体的に説明書を書いたり, 読み合ったりする活動に適している。また, おもちゃを仕上げるまでの過程で, 本文のキーワードに注目し, 何度も確かめながら読む必然性が出てくる。さらに, 読み取ったことを生かして自分でおもちゃの作り方を書くという活動も子どもたちが意欲的に活動できる教材となっている。

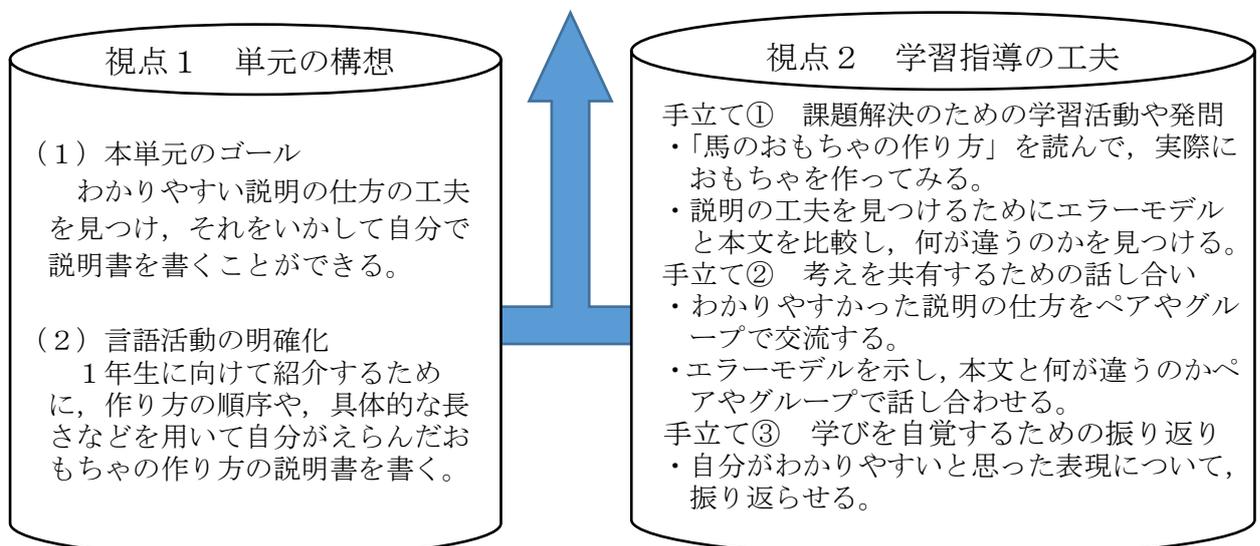
(2) 児童の実態について

本学級の児童は1学期の「たんぼぼのちえ」の学習で, 順序を考えて読む, 関係を考えて読む学習に取り組んできた。説明をする上で順序を表す言葉が大切であるということを理解することはできたが, 実際に自分で説明するとき用いる力はまだ身に付いていない。

そこで, 本単元では, 生活科の時間に工夫しながら作ったおもちゃの作り方の説明書を書くというゴールを設定し, わくわくした気持ちを持続させながら取り組ませたい。また, 1年生に伝えたいという目的意識を持たせることで本文にどんな順序で書かれているのかを意識させながら読む力を高めるとともに, それを活用する力を身に付けさせたい。

(3) 指導の工夫(研究に関わって)

読む力…「文章を正確に読み, 叙述に即して内容を正確に理解し, 読み取ったことをもとに自分の考えをもつ力」



4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
・共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	① 「読むこと」において, 文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 C (1) ウ ② 「書くこと」において, 事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 B (1) イ	・進んで, 説明における事柄の順序を考え, 相手に伝わるようにおもちゃの作り方の説明書を書こうとしている。

5 学習指導計画 (13時間)

学習過程	時	主な学習活動	評価規準
見直し	1	○生活科で作ったおもちゃをどのように作ったか想起させる。 ○単元のゴールを確認する。	
構造と内容の把握	2	○初めにエラーモデルを示し, その後本文がどんなまとまりで書かれているか読み取る。	
	3	○本文を読んで実際におもちゃを作りながら, 内容を読み取る。	
精査・解釈	4 (本時)	○エラーモデルと教材文を比較し, 教材文の良さに気づく ○なぜ馬のおもちゃがうまくできたのか考える。 ○見つけた工夫の中から, 使ってみたい工夫を選ぶ。	【思①】 順序を表す言葉や数字など, 説明書を書く時の工夫を見つけロイロノートに記録しているか確認する。 [ロイロノート・ワークシート]
考えの形成	5	○見つけた工夫を交流し, 友達を選んだ工夫の良さに気づく。	
題材の設定, 情報の収集, 内容の検討	6	○説明するおもちゃを決め材料や道具を書き出す。	
構成の検討	7	○選んだおもちゃの作り方の説明の仕方を考える。	【思②】 これまでに学習した説明の工夫を用いて, 説明文を書いているか確認する。 [ワークシート]
	8		
考えの形成, 記述	9	○自分が選んだおもちゃについて, わかりやすく説明する文章を書く。	【知】 書く順番を意識し, 順序を表す言葉や具体的な数字などを用いて説明書が書けているか確認する。 [ワークシート]
	10		
	11		
推敲	12	○友達が書いた説明書を読みながらおもちゃを作り, わかりづらかったところや改善点を伝え合い, 説明書を修正する。	【態】 進んで, 説明における事柄の順序を考え, 相手に伝わるようにおもちゃの説明文を見直しているか確認する。 [ワークシート]
共有	13	○完成した文章を読みながらおもちゃを作ってみる。 ○説明書のよかったところを伝え合う。	

6 本時の指導 (4/14)

(1) 目標

「馬のおもちゃの作り方」の説明の工夫を見つけることができる。

(2) 評価規準

自分がわかりやすいと思った重要な語や文を見つけ、理由を書くことができる。

ねらいを達成している児童の姿・見取りのポイント	ねらいを達成していない児童への支援
順序を表す言葉や数字などに着目し、見つけている。 ・「まず」や「つぎに」など順序を表す言葉 ・「四つ」や「四センチメートル」など具体的な数字 ・「馬の体」や「馬のあし」など体の部分を表す言葉	エラーモデルと教材文を比べさせ、教材文の方がわかりやすいわけを考えさせる。

(3) 展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◎評価
導入 (10分)	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。 せつ明のくふうを見つけよう。 3 課題解決の見通しをもつ。 ○エラーモデルでは馬のおもちゃをうまくつくれなかった理由を考える。	・「馬のおもちゃの作り方」を読みながら実際におもちゃを作ったことを思い出させる。 ・エラーモデルのよくない点を短冊に書かせ黒板に貼らせる。
展開 (30分)	4 課題を解決する。 ○エラーモデルと教材文を比較し工夫を見つける。 ○見つけた工夫を交流する。 ○友だちの意見を聞いて、良いと思ったところを全体で共有する。 ○児童から出てきた言葉について、ロイロノートでグループ分けをする。	・説明書を書くときに自分で使えそうな説明の工夫をロイロノートに記録する。(手立て①) ・ロイロノートに記録した工夫をペアで交流する。(手立て②) ・その工夫を選んだ理由も発表させる。 ・児童が発表した際に「なぜ」「どうして」という問いを投げかけ、理由まで発表させる。(手立て②) ・思考を整理させるためにロイロノートのYチャートを用いる。(手立て①) ◎【思①】自分がわかりやすいと思った重要な語や文を見つけ、理由を書くことができる。 [ロイロノート・振り返り]
終末 (5分)	5 本時の学習を振り返る。 ○自分が説明書を書くときに使ってみたい工夫を選び、その理由を書く。 6 次時の学習を確認する。	・自分が使ってみたいと思った説明の仕方と理由について振り返らせる。(手立て③) ・次の時間は使ってみたい工夫について交流することを確認する。

(4) 板書計画

<table border="1"><tr><td>じゅんじよがわからない</td></tr><tr><td>どのくらいの長さか</td></tr><tr><td>わからない</td></tr></table>	じゅんじよがわからない	どのくらいの長さか	わからない	エラーモデル	十一月二十四日 (金) 馬のおもちの作り方 かだい せつめいのくふうを見つけよう
じゅんじよがわからない					
どのくらいの長さか					
わからない					
どこのぶぶんをつくれば いいかわからない					
<table border="1"><tr><td>① 時間をあらわすことば</td></tr><tr><td>② 長さや数字</td></tr><tr><td>③ 部分をあらわすことば</td></tr></table>	① 時間をあらわすことば	② 長さや数字	③ 部分をあらわすことば	教材文	
① 時間をあらわすことば					
② 長さや数字					
③ 部分をあらわすことば					

7 考察

【成果】

- ・タブレットを用いたことで子どもたちが意欲的に活動できた。
- ・シンキングツールを用いて子どもたちが主体的に考えることができた。
- ・エラーモデルを示したことで、説明に必要な要素を理解することができた。

【課題】

- ・意図した言葉を引き出す発問がうまくできなかった。
- ・最後まで相手意識をもたせるために活動の吟味が必要だった。
- ・各単位時間に何をやらせるのかをさらに吟味が必要だった。